

3-6. 自然再生協議会の参加者

全体構想では、「協議会に参加する者の名称又は氏名、及びその役割分担」を定める必要があります。

記載項目の例

- 多様な主体が参加する協議会において、各主体の役割を明確にするため、「協議会に参加する者の名称又は氏名、およびその役割分担」を記載します。

解説

(1) 「協議会の役割分担」検討における留意事項

▶ 役割分担の重要性

自然再生の取り組みは、多様な主体が、多岐にわたる活動をそれぞれの役割において実施することが基本です。協議会の構成員は、自然再生事業等の取り組みに参加することが求められており、具体的かつ明確な役割分担とすることにより、各構成員の責任を明確にし、自覚を促すことにつながります。

一方、役割分担を明確にした場合は、他の構成員の役割に関心を失い、協議会全体で協力し合うという意識が希薄になる可能性もありますので注意しましょう。

▶ 役割を定義する方法

構成員の役割分担には様々なタイプが想定されます。地域の状況に応じたタイプの役割分担を検討していきますが、地域によっては複数のタイプを組み合わせた形で役割分担が定められることもありますので、協議会で十分に協議しましょう。

表：役割分担のタイプと役割分担の例

タイプ	役割の例
自然再生の目標ごとの分担	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な動植物が生息する水辺の保全と再生 ・環境負荷が小さい地域づくり ・啓発活動と環境学習の推進
目標達成のための取り組みごとの分担	<ul style="list-style-type: none"> ・水生植物の適正な管理 ・利用者の計画的な誘導 ・移植による植生復元 ・排水ルールの整備 ・パンフレットの作成 ・希少種の生息場所の確保 ・エコツーリズムの推進 ・外来種の駆除 ・ゴミ拾いの実施
事業の実施段階ごとの分担	<ul style="list-style-type: none"> ・調査と計画策定 ・中長期計画の実施 ・維持管理 ・短期計画の実施 ・モニタリング
エリア区分ごとの分担	<ul style="list-style-type: none"> ・海エリア ・川エリア ・山エリア
取り組みへの関わり方による分担	<ul style="list-style-type: none"> ・主導して積極的に行う ・助言、指導、情報提供 ・将来的に連携を図る ・行われる取り組みへの参加や支援 ・協力が期待される

【取り組みごとに役割分担する事例】 三方五湖自然再生全体構想

表 三方五湖自然再生取り組みの役割分担

	研究者	行政				地域団体・住民など						
		環境省	福井県	美浜町	若狭町	漁業関係者	農業関係者	観光関係者	教育関係者	環境保全団	地元住民	地域外の人々
■多様な魚介類がすみ、水鳥が羽ばたく水辺の再生と保全												
①多様な生きものを育む水辺の再生	◇	◇	◎	◎	◎	○	○			○	○	○
②湖と田んぼのつながり再生	◇	◇	◎	◎	◎	○	◎			○	○	○
③重要な魚類の生息環境の再生と保全	◇	◇	◎	○	○	○	○			○	○	○
④外来生物の駆除	◇	◇	◎	◎	◎	◎	◎			○	○	○
⑤自然のしくみを活かした水質浄化	◇	◇	◎	◎	◎	○				○	○	○
⑥調査研究・モニタリング調査の実施	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○
■「三方五湖」の自然を活かした地域のにぎわい再生												
①環境配慮型で取り組みやすい農法の研究・普及	◇	◇	○	○	○		◎			◎	○	
②イメージを活かした商品づくりとPR			○	◎	◎	○	◎				○	○
③自然を体験・体感できる観光などの推進			○	◎	◎	○	◎			○	○	○
④自然再生に関わる情報システムの構築	◇	◇	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	○	○
■生活の中で受け継がれてきた湖の文化の伝承												
①伝統的な漁法、農法、行事、食文化、遊びの伝承	◇					◎	◎	◎	◎	◎	○	○
②湖の伝統文化祭の開催				◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
③環境学習の場の提供		◇	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	○
④ゴミゼロ活動の実施			◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○

◎ 主導して積極的に行う
 ○ 行われる取り組みへの参加や支援
 ◇ 助言、指導、情報提供

【エリアごとに役割分担する事例】 竜串自然再生全体構想

表5-1 役割分担表

		地域住民・団体	専門家	観光関係機関	農林水産業関係機関	土佐清水市	高知県	農林水産省	環境省	長野県	海上保安庁	
沿岸生態系の保全と再生	対象区域（海域）	豊かなサンゴ群集の保全と再生										
			●	●	●	●	●	●	●			
			●	●	●			●		●		
			●	●	●	●	●	●		●		
			●	●	●	●	●	●		●		
				●						●		
			●				●	●		●		
関連区域（陸域）			●								●	
			●	●	●	●	●				●	
			●	●	●	●	●				●	
			●			●	●					
			●			●	●					
自然と共生した活力ある地域づくり	地域社会	持続可能な自然環境の利用と地域産業の活性化										
		●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

▶ 役割分担の合意形成

協議会の役割分担も協議会の議論を経て合意形成を図ります。協議会の事務局や主要なメンバーがベースとなる案を作成・提示して、その案に対して協議を行い、関係者で承認を行う形の協議会が多いと想定されます。

しかし、その形で合意形成を行う場合は、各構成員にとっては「与えられた役割」となり主体性を失わせたり、具体的な活動イメージができずに役割を果たせないといった懸念もあります。ベース案を提示する際には各構成員に説明を行い、意見や認識をすり合わせておくことが大切です。十分留意して合意形成を進めていきましょう。

▶ その他の留意事項

役割分担の実効性を高めるためには、協議会構成員が以前から行っている活動をベースに、役割を検討することが基本です。特に継続的に行う維持管理の取り組みでは、構成員の普段の仕事に取り入れやすい形で役割を設定することが有効です。

役割分担は自然再生事業実施計画の策定時など、必要に応じて見直しましょう。

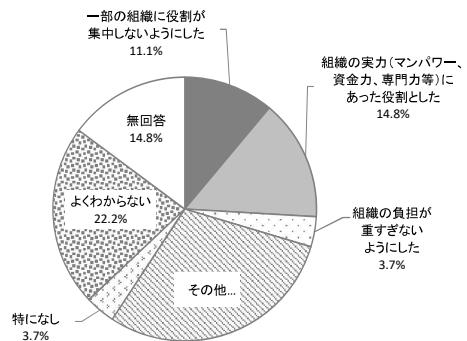
コラム Column

役割分担に関する法定協議会へのアンケート

平成30年度自然再生協議会全国会議において、自然再生基本方針の見直しにむけた意見等を議論するにあたり、全国の自然再生協議会を対象に事前アンケートを実施しました。

Q5-4(1) 役割分担について留意した点は何ですか？

	回答数	構成比
1 一部の組織に役割が集中しないようにした	3	11.1%
2 組織の実力(マンパワー、資金力、専門力等)にあった役割とした	4	14.8%
3 組織の負担が重すぎないようにした	11	37.3%
4 その他	8	29.6%
5 特になし	1	3.7%
6 よくわからない	6	22.2%
無回答	4	14.8%
	27	100.0%



4. その他【自由記入欄】

- 全体構想の各施策の実施に関わる関係機関、行政機関、関連専門家・NGO・地域住民の所属に留意した
- 役割分担を学識、行政、個人、団体、市民、学校等で区分した
- 自然再生箇所の維持管理やふれあい活動を行う団体を協議会とは別に新たに設立した
- 構成員の主体性
- 広範囲に及ぶため、各委員が出来ることをやるスタンスを取っている
- あまり具体的なことを議論できなかったことから、ひとまず関係する機関、団体には一通り役割分担を割り振った
- 各構成員の専門分野が生かせるようにした
- H30年度事業開始のため、役割分担の段階に至っていない

(2) 「協議会の役割分担」等の記載における留意事項

▶ 「協議会に参加する者の名称又は氏名」を記載するにあたっては、ほとんどの協議会で、協議会の委員名簿を掲載しています。

「役割分担」は表を用いて示すとわかりやすくなります。ほとんどの協議会の全体構想において、役割分担表が掲載されています。

▶ 委員名簿では、一般的に次のような項目が記載されます。

[項目例]

- ▶ 区分（「学識者」「団体」「個人」「関係行政機関」「地方公共団体」等）
- ▶ 所属
- ▶ 役職
- ▶ 代表者名
- ▶ 分科会・小委員会の所属
- 等

▶ 協議会の役割分担については、将来的に協力を期待する主体として、協議会の構成員以外の地域住民、学校、自治会、その他団体を記載する場合があります。

【協議会の構成員以外を役割分担に記載している事例】
 榎野川河口域・干潟自然再生全体構想

(2) 役割分担表

協議会への参加者及び教育機関など協力参加を願う機関の役割分担は表4-1 に示すとおりである。

表4-1 役割分担表

作業項目	作業内容	協議会参加主体					協力参加を願う主体	
		事業実施者	学識者	公募委員		関係自治体	地元自治会等	教育機関
				個人	団体			
豊かな泥干潟の再生	カキ殻分布域での上下層置換、カキ殻粉砕片や堆積砂との混合等による底質改善 カキ・カキ殻との共生	○	○ 助言		○ 協力	○ 協力		
豊かな砂干潟の再生	カブトガニの生育に配慮し、干潟を耕耘などにより再生・改善	○	○ 助言	○	○ 協力	○ 協力	○ 協力	○ 協力
カブトガニ産卵場保全	干潟に点在しているカブトガニの産卵場所を保全・維持	○	○ 助言	○	○	○	○ 協力	○ 協力
豊かなアマモ場・浅場の再生	アマモ場の再生・維持管理 干潟・浅場造成として、アマモ場造成 親水関連施設（後浜整備、潮干狩り、レクリエーション施設、自然体験学習施設等）の整備	○	○ 助言	○ 協力	○ 協力	○ 協力		○ 協力
豊かな泥浜・レク干潟の再生	野鳥の餌場として現状環境を保全 一部区域では客土等を行い、干潟を再生 泥遊びなどの泥浜やレクリエーション場の設定	○	○ 助言	○ 協力	○ 協力	○		○ 協力
豊かな後浜（背後地）の再生	ヨシ原、鳥類餌場などを保全 後浜と干潟を利用した自然体験活動、環境学習場所、潮干狩りや散策などの場の設定	○	○ 助言		○ 協力	○	○ 協力	○ 協力
現状干潟の観察・維持	カキやカキ殻の存在する場、カブトガニが生育する場等についての状況変化を観察しながら維持	○	○ 助言		○	○	○ 協力	○ 協力
全区域を対象とした共通項目	干潟等の課題解明、再生方法検討等の研究 海域・水域の水環境の改善への取り組み 自然体験などの環境学習・教育 住民が参加できる仕組みづくり 産学官民のネットワークづくり 事業の環境モニタリング 様々な情報の管理・提供等	○	○	○	○	○	○ 協力	○ 協力

※ 助言は参加できなくても、技術的な教授や意見等を述べる。
 協力は支援をしたり、実際に参加する。

【役割分担を表で記載している事例①】 伊豆沼・内沼自然再生全体構想

【各主体の基本的な役割】

関係機関	果たすべき役割
地域住民、地元関係団体	自らの地域の豊かな自然を守り持続的に利用するとともに次世代に伝えていくため、自然再生活動に積極的に参加する。また、周辺農家においては、ラムサール湿地という特性を生かした環境保全型農業への取り組みなどを実践する。
環境関連団体、NPO等	自然環境保全活動の実践から得られた経験や専門的知識及びそれぞれが有する広域的なネットワークを活用し、自然再生活動に取り組む。
学識経験者	各取り組みに対して専門的・技術的な助言を行うとともに、現場でのフィールドワークや専門的研究に取り組む。
財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	伊豆沼・内沼に最も近い現場で活動しているという利点を活かし、伊豆沼・内沼の環境保全活動の先導役と総合的な調整役を果たす。また、各実施計画の策定へも主体的に参加する。
環境省	国指定鳥獣保護区保護管理計画に基づいた実施者への助言指導を行う。
国土交通省	河川管理の観点から実施者への助言指導を行う。
農林水産省	周辺農地や農業用水利施設等の適切な利用の観点から実施者への助言指導を行う。
宮城県	生物多様性の保全・再生や健全な水環境の回復について、実施計画策定主体として総合的な調整役を担うとともに、その主要な事業の実施主体となる。
登米市・栗原市	伊豆沼・内沼の賢明な利用と環境学習について、実施計画策定主体として総合的な調整役を担うとともに、その主要な事業の実施主体となる。

【役割分担を表で記載している事例②】 巴川流域麻機遊水地自然再生全体構想

種別	協議会委員						その他	
	学 議 者	静 岡 県 土 木 部	静 岡 市	中 部 地 方 整 備 局	団 体	個 人	市 民	学 校 ・ 団 体
■良好な水環境の再生								
①池沼部の水深の維持管理	◇	◎	○	◇	○	○	△	△
②水質・水位などの把握	◇	◎	◎	◇	○	○	△	△
③湧水の保全・再生	◇	◎	◎	◇	○	○	△	△
④適正な水質および底質の管理	◇	◎	◎	◇	○	○	△	△
⑤澄んだ水の確保と水の流れを再生するための検討・実施	◇	◎	◎	◇	◎	◎	△	△
■在来種の保全と生態系のバランスを保つ								
①外来種の管理手法の検討および対策の実施	◇	◎	◎	◇	○	○	△	△
②動植物の生息・生育環境の保全・再生	◇	○	○	◇	◎	◎	△	△
③動植物の事前調査・モニタリング調査の実施	◇	◎	◎	◇	○	○	△	△
④適正な開放水面の検討・維持管理	◇	○	○	◇	◎	◎	△	△
⑤表土の保全と土の持ち込みに関するルールづくり	◇	◎	◎	◇	○	○	△	△
■人と自然との持続的な関わりづくり								
①環境学習の場としての活用方法の検討・実施	◇	◎	◎	◇	◎	◎	△	△
②水田の維持管理・利用方法の検討・実施	◇	◎	◎	◇	◎	◎	△	△
③利用に関するルールづくり・対策の実施	◇	○	○	◇	◎	◎	△	△
④風俗・風習の継承		○	○	◇	◎	◎	△	△
⑤清掃作業の実施		◎	◎	◇	◎	◎	△	△
⑥安全管理の推進		◎	◎	◇	◎	◎	△	△
⑦持続的な自然資源活用のための検討実施	◇	○	○	◇	◎	◎	△	△
⑧今後を担う人材の育成	○	○	○	◇	◎	◎	△	△
■周辺とのネットワークづくり								
①周辺の自然環境とのネットワーク形成の推進		◎	◎	◇	◎	◎	△	△
②自然再生事業の情報の発信および収集と市民参加の推進	◇	◎	◎	◇	◎	◎	△	△
③市民、団体、企業、行政とのネットワーク形成の推進		◎	◎	◇	◎	◎	△	△

◎：主導して積極的に取り組む。

○：行なわれている取り組みへの参加や支援を行う。

◇：助言、指導、情報の提供を行なう。

△：将来的に連携を図るもの。

【役割分担を表で記載している事例③】 上山高原自然再生事業全体構想

■ 上山高原自然再生協議会 名簿

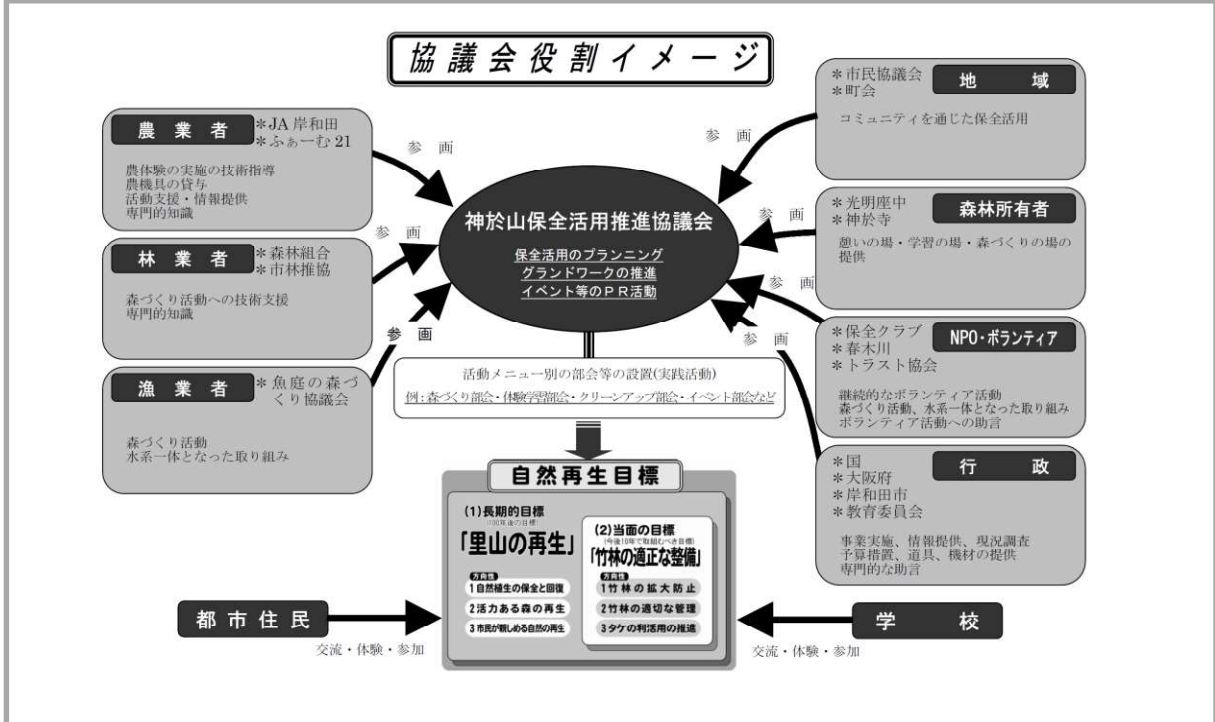
所 属 等	備 考	役 割
特定非営利活動法人上山高原エコミュージアム	N P O	○ 自然再生事業実施者 ・ 自然環境保全の実施
新温泉町	地方公共団体	○ 自然再生事業実施者 ・ 広域調整 ・ 運営体制の整備支援 ・ 各種活動の支援
兵庫県（環境担当部、但馬県民局）	地方公共団体	○ 自然再生事業実施者 ・ 施設等基盤整備の支援 ・ 各種活動の支援
環境省（近畿地方環境事務所）	関係行政機関	○ 活動の支援及び助言
林野庁（近畿中国森林管理局兵庫森林管理署）	関係行政機関	○ 活動の支援及び助言
神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授 武田 義明	専門家	○ モニタリング及び評価
日本イヌワシ研究会兵庫地区委員 三谷 康則	専門家	○ モニタリング及び評価
兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会 近藤 伸一	専門家	○ モニタリング及び評価
但馬を映像で発信する会 コウノトリ環境経済 コンソーシアム 木村 尚子	地域住民	○ 自然再生事業への参画
特定非営利活動法人 森と地域・ゼロエミッションサポート倶楽部 小島 正樹	地域住民	○ 自然再生事業への参画

<参考>特定非営利活動法人上山高原エコミュージアムの事業推進体制

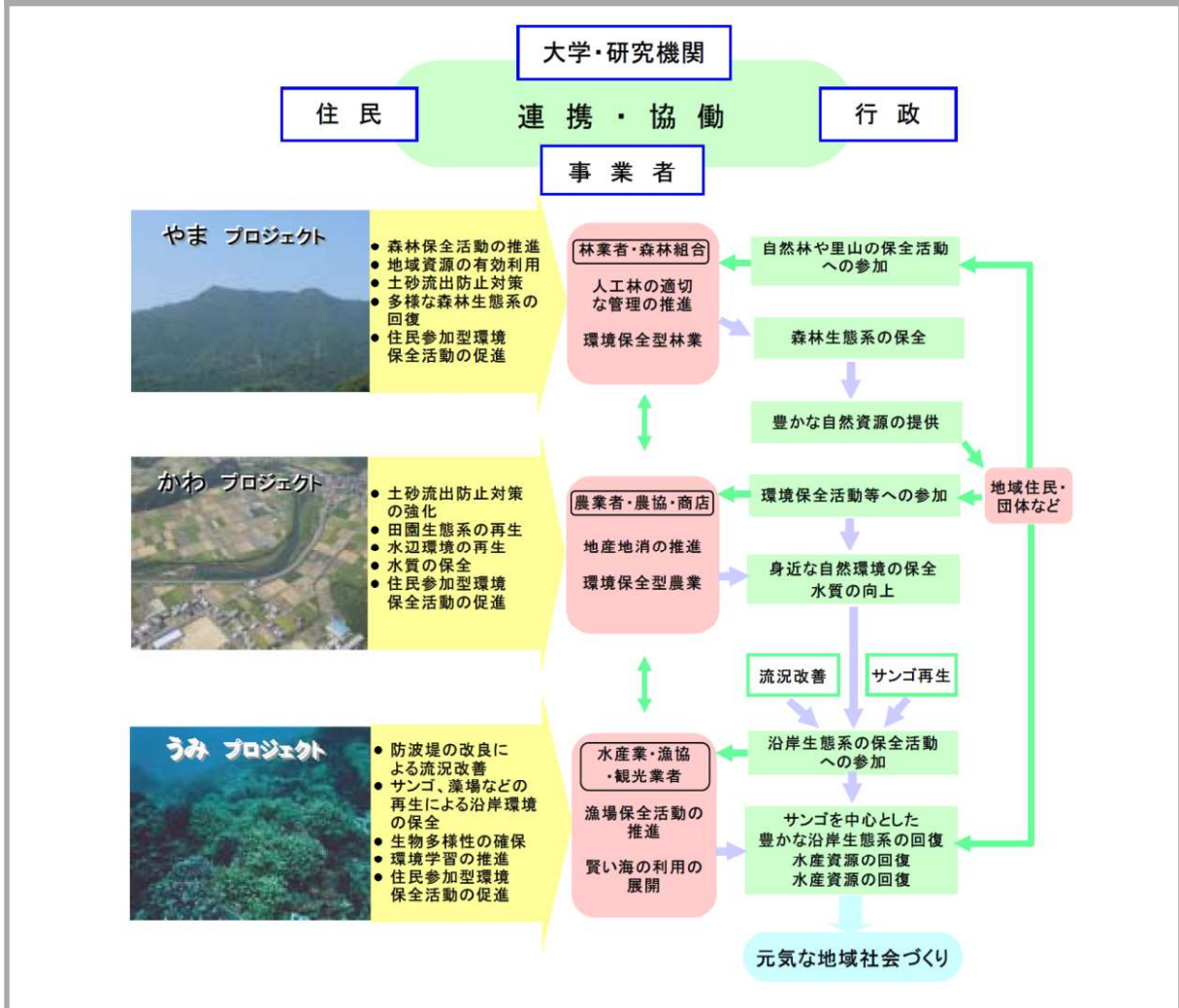
組織体制	主な役割
特定非営利活動法人 上山高原エコミュージアム	○ 自然再生の運営 ○ 各種プログラムの企画・実施 ○ 研究者や実践団体などとのコーディネート ○ 物販販売、民泊・ホームステイ窓口 等
保 全 部 会	自然再生作業の企画・実施・管理 ・ ススキ草原の保全・復元作業と現場の管理、火入れ等多様な手法の試行 ・ プナ林の復元作業（プナ苗育成の管理、植樹の実施） ・ 有償ボランティアの管理、作業台帳の管理 など
プログラム部会	八田の資源の活用について全体的なイベントやコースづくり等の企画・実施 例：・春の火入れフェスティバルなど季節毎のイベント企画 ・ 歴史文化などテーマごとに巡るコース設定の検討 など
サテライト部会	八田の様々な資源（サテライト）の掘り起こし、魅力付け、新たなサテライトづくり等の企画・実施 ・ サテライトの掘り起こし、魅力付け検討・インタープリターの養成など
P R 部 会	様々な情報をどうやって内外へ発信するか等の企画・実施 ・ 内外へのニュースの企画・発行・ホームページの企画など
調 査 研 究 部 会	自然再生事業のうち特にモニタリングの企画・実施・コーディネート ・ 上山高原の自然環境等、様々な調査・研究の企画・実施 ・ 他グループ、研究機関とのコーディネート ・ 研究への対応・研修への対応 ・ インタープリターの体制づくり

※このほか、炭焼きプロジェクトなど部会横断的なプロジェクトがある。

【役割分担をイメージ図で記載している事例①】 神於山地区自然再生全体構想



【役割分担をイメージ図で記載している事例②】 竹ヶ島海中公園自然再生全体構想



チェックポイント

- 全体構想到協議会に参加する者の名称、氏名及びその役割分担は明示されていますか。